

# 久里浜天神社社報 てんじんさま

平成25年11月1日 第111号  
発行所 久里浜天神社社務所  
〒239-0831 横須賀市久里浜 5-19-1  
TEL 046-835-3703 Fax 046-835-3503  
ホームページURL tenjinsha.or.jp



霜月 十一月

## 本日はよくお参り下さいました

ホームページをリニューアルして約一ヶ月が過ぎました。社報は月に一度の発行ですが、ホームページはほぼ毎日更新しています。神社の近況や新着情報などを綴っていますのでよかったですら御覧ください。さて現在天神社は暮れからお正月にかけての準備に入っており慌ただしさを増しています。10月30日には神宮大麻頒布式(たいまはんぷしき)並びに研修会が、鶴岡八幡宮で行われました。大麻頒布式は毎年神宮のおふだが各神社に届く時に行われる行事です。これで各御家庭に新年のおふだをお届けする準備が整いました。年内で一番最初におふだをお頒かちすることができるのは、12月5日の酉の市です。一般的に酉の市は11月中に行われますが、当社の酉の市は、毎年12月5日です。神社特製の金運開運招福くまで御守が頒布されます。お昼頃から夜9時頃まで、露店も出ます。だいたい寒くなると思いますので暖かくしてお出かけください。今月も皆さんの暮らしが豊かで幸せでありますようにお祈り申し上げます。(道子)



**12月5日より新年の神棚のおふだをお頒かちします。新しいおふだとともに新年を迎えましょう。**

## 11月3日 明治節(文化の日)・【一の酉】

3日文化の日は明治天皇のお誕生日で戦前は明治節と呼ばれていました。明治天皇が崩御され大正天皇が即位されると11月3日は普通の日になってしまいます。しかし大正14年に11月3日を祝日にする請願運動が行われ、二万名の署名が議会に提出された結果、大正天皇のご病気による審議の中断はありましたが、ついに昭和2年に「明治節」として制定されました。戦後は祝日法が公布され「文化の日」となりました。今年は一の酉に当たっています。

## 15日 七五三・【二の酉】

本来七五三は11月15日です。対象の方は三歳の男女・五歳の男児七歳の女児です。満年齢でも数え年でも構いません。今年は一の酉に当たっています。



文化の日は  
明治の日です



## 23日 新嘗祭(にいなめさい)

神道の収穫祭とも言える大切なお祭りです。天皇陛下が神さまに新米をおすすめる日です。そのため天皇陛下は、この日まで新米をお召し上がりになりません。



## 27日 【三の酉】

年によって三の酉までありますが今年がまさにその年です。

〈安産祈願される方へ〉  
**今月の戌の日は  
4(月)・16日(土)  
・28(木)です。**

## 天神さまの豆知識

〜三の酉の時は火事が多い?〜

酉の市といえば大きな縁起物の熊手を思い浮かべる方も多いと思いますが、神社では、熊手御守(かつこめ)を授与しています。最近では昔のように、商売をなさっている方だけではなく、家庭内安全・健康・金運・勝運・良縁成就、福をかきこむ開運熊手と意味が広がり、商売繁盛はもちろんのこと、若い人も楽しめる市として賑わっています。◆さて、今年平成二十五年の十一月は三回酉の日があります。それについて言われている興味深い話がありますのでご紹介いたします。◆『三の酉の年は火事が多い』と言われるが、その由縁はよく分かっていないのが事実である。だがいくつかの説がある。当時の江戸は火事が大敵である。空気の乾燥する寒い三の酉の時期に、火への戒めを喚起したという説もあり。また酉の市に乗じて吉原へ出かけようとする男たちを足止めするために女房たちが「三の酉の年には火事が多い、だから夜遊びはほどほどにしよう」と広めた説もある。また、驚神社の由緒にも記しているように地方などに宵に鳴かぬ鶏が鳴くと「火事が出る」と言われたことから出たという俗信もある。中でも明暦三年(一六五七)の一月十八日に起きた大火は三の酉の年と深い関係がある。◆『風俗画報』に次のように記述されている。『年により酉の日三度あれば亦三度市立つ故に一の酉二の酉三の酉と呼ぶ。昔より酉の市三度立つことあれば其の月の内吉原郭内に必ず異常の異変ありと傳ふれど今年もあなたも三度ありしが別に変わることなかりき』とある。三の酉まである年は、吉原に異変があるとの伝承は、浅草の方で言われてきたことで、一般的には



天神社の熊手御守

## 江戸の町火消し (イメージ)



その年は火事が多いと言われていた。一六五七年に発生した「明暦の大火」いわゆる「酉の年大火事」の記憶がそうした伝承を生み出したとも言われている。◆酉の市は翌年(来る年)の諸祈願をお祈りするお祭りである。明暦の大火が起る前年、明暦二年の十一月から翌明暦三年一月にかけて江戸の町は十日近くも雨がふらず、異常気象とも言える乾燥した日々が続いていた。ちょうどその年の酉の市は三の酉までであった。当時はまだ「三の酉の年は火事が多い」という説は無かったのだろう。そして翌年の明暦三年(酉年)一月十八日明暦の大火が起ってしまった。この大火の被害状況を『武江年表』に『万石以上の御屋敷五百余宇(…省略)焼死十萬七千四十六人といへり』と記している。この明暦の大火の被害が如何に大きなものであったのか、よく分かるだろう。◆このような明暦の大火の年と三の酉の年の奇妙な一致から、当時の人々は酉の市が三度ある時は、火への注意心を改めて深めるようになっていったと思われる。また三の酉が斎行される時期には、次第に寒さも増し、火を使う機会も増えることから火に対する戒め、慎みから「三の酉の年は火事が多い」と伝えられてきているようだ。参考『浅草驚神社公式ホームページ』より



火には十分用心しましょう